

・インタビュー  
初の自選画集「私の曼陀羅」刊行によせて

# 私の絵は、八歳の 絵なんですね。



十牛図より「尋牛」

**須田 剃太**

〈洋画家〉

「正法眼藏」に触発され、私の絵の道が始った

——須田先生は、このほど自選画集『私の曼陀羅』を出されました。(光琳社出版刊・九八〇〇円)、これは、これまでに描いてこられた具象画の集大成ですね。

須田　ええ、そうです。さらに、もう一冊、すぐその後に出るんです。朝日カルチャーセンターで造形について講演したんですが、それを中心に集めた『私の造型—現代美術』が出来ます(大阪書籍刊)。私が計画したんではなく、偶然に絵と理論の本が揃った。面白いことだと思うんですよ。

——先生の作品には『私の曼陀羅』に収められた具象画がある一方、抽象画も同時に描いていらっしゃいますね。抽象と具象の両方をやる方は、あまりいらっしゃらないのではないかですか。

須田　そうですね。一人の作家で抽象と具象を両方やってるのはいないですね。批評家によつては、両方やつてはいかんといふ人もいます。しかし長谷川三郎はそうではなかつた。両方ともやれと言つた。ずっと前に、私が抽象か具象かを迷つたときに、長谷川三郎に、それなら君、道元の『正法眼藏』を読んでみたまえ、と言われ

たんです。あのなかを見たら、生と死、善と悪という互に矛盾した存在が常に存在していると書かれている。だから絵画においても抽象と具象の両方をやつて当然だし、それが出来なければ駄目だと言われた。それで、私はあつとつて、それならと両方を今でもやつっているんですよ。

——先生は、司馬遼太郎先生の『街道をゆく』(週刊朝日連載)シリーズの挿絵で、昨年、講談社出版文化賞を受賞なさいましたが、これも具象の世界ですね。

須田　これも偶然に起つたことなんです。以前、犬養道子さんが芦屋にいたでしょう。ご自分のお祖父さんの犬養木堂の伝記を毎日新聞の夕刊に書かれる頃なのですが、芦屋近辺の画家に挿絵を頼もうということになり、私が犬養木堂を非常に尊敬していたので、じや描きましたようということになつた。それまでは具象で挿絵なんか描いたことがなかつたんです。一年間つづきましたね。ヨチヨチした子供のようない絵だったんだけど、あれをやつたために須田は具象も描けるのではないかということになり、「街道をゆく」の挿絵を引き受けることになつたんです。このシリーズも十五年になるんですよ。

——長いですね。始まつたのが、ついこの間のことの

ような気がするんですが。

須田 いつの間にか十五年、たっちやいましたよ。これも自分が計画したのではなく、偶然なんですね。まあ、なるようになるというのが自然でしよう。

私は今、抽象と具象と両方やっているので、忙しいんですよ（笑）。ただ今は抽象をあまり描けないのですが、やるときは徹底してやる。具象もそうです。ですから、いつか誰かが、須田は抽象と具象もいって言つてくれたら私は満足なんです。どっちも悪いって言われたら困

のですが（笑）。

——先生が抽象と具象の両方をやることになったについての背景をもう少しお伺いしたいのですが。

須田 どうしてかと言うと、すべて人生のことについては何でも、一方的では駄目なんですよ、実は。そうでしょう。音楽にしても、古典もやらなければいけないし、前衛的なこともやる。両方はいつも矛盾しながらも平行して存在しているんですよ。抽象と具象とは決して一緒ににはならない。ならないがこそ矛盾しているんですね。われわれのなかにも、善と悪がある。善いこともやるが悪もあるということを意識していないといけない。

善と悪、男と女、生と死、これらはすべて矛盾した存在でしょう。しかし現に存在する。たとえば、生きている以上、必ず死ぬでしよう。これは生まれたときから分っているのだけれど、しかし死が来たら悲しい。悲しまないためには生をうんと生ききればいい。そういう感じが今、ありますね。

子供時代、普通の男の子がやることが出来なかつた

——先生は明治三十九年のお生まれですが、どちらの出身ですか。

須田 埼玉県の吹上町なんですよ。もともと関東人なんです。関西へは昭和十六年に京都へ出て来たのが最初ですから、もう四十年もこっちにいるのに大阪弁がしゃべれないんです。吹上町は北関東。国定忠治が出たところだし、カラッ風とカカア天下（笑）。上州氣質が今でも直らない。大阪弁を使うとおかしくなるんです（笑）。

私の父は土地の小学校長をしていたのですが、祖父は宮大工なんですね。名人気質の人だったんですが、明治の初めに百姓になった。父は埼玉師範学校の第一回の卒業生なんです。当時としては進歩的な男だったんではないですか。四十年近く郷里の吹上で教鞭をとり、世話を好きでいろいろな人を育てたようで、今も吹上小学校には私の父、須田大五郎の顕彰碑が建っています。



これまでの足跡を踏む須田画伯。「正法眼藏」との出会い、様々な人々との邂逅が絆縁に語られ、興味が尽きない。



▶「ひまわり」(私の曼陀羅所収)

もともと私の家は、比企能員（鎌倉初期の武将）の輩下なんですね。頼朝の乳母比企禪尼の嗣となつた人ですが北関東一帯を支配していた。祖父は比企能員を祀つた神社を造つたのだから、すぐれた文化人であつたのかも分りませんね。僕はその血を引いていふと言えるかも知れないね。造形をやり出したのだから。

母方は、父親が上野の彰義隊に敗れて百姓になつたという家です。弟は、身体は父に似てゐるのだけれど、精神はおふくろに似ている。私は身体はおふくろに似ていのだけど、精神はおやじ似なんです。

——先生が絵をやろうと思われたのはいつ頃からなのですか。

須田 中学生のときですね。熊谷中学校を昭和二年に卒業しますが、三年生までは私を入れて四人が常に主席争いをしていました。ところが病氣をしてしまつて勉強が厭になり、絵の方へ走ってしまった。お情けで中学校を卒業できたんです（笑）。

私は生まれたときから弱かったんですね。弱くて瘤が強くて、引付けを起こしたり、三歳までもないだろうと言わされたぐらいに弱い子だった。普通の男の子がやることが出来ない。運動が出来ない。そういう子供だったんですね。たいがいの子供は、ある年齢に達したら働いて

て食べるということを考えるでしょう。ところが今だにそれがない（笑）。つまり、経済観念が全然ない。まるでホーッとしている（笑）。小さい頃から絵が好きで、花魁の絵をよく描いていました。父のところへ女の先生がよく来るのですが、呼ばれても行かない。何故かというた。今考へてみると、それは造形なんですねえ。

それで中学校を卒業して美術学校を受けるのですが、四年とも駄目だった。とうとう、こんなに癖のある絵を描く子をこの学校は採らないと言われて腹が立ち、学校へ行くのをあきらめてから私の絵の道が始まります。姉が浦和にいたので、昭和二年から十六年までそこにいて、その暮に京都で仮寓、関西での生活の始まりです。

純白のドレスとバラソル姿の妻に一目惚れ  
——その間、昭和十四年に「読書する男」、十六年に「神將」がそれぞれ日展の特選に入つておられますね。京都から今度はどうちらへ。

須田 京都へ行つたのは、もともと法隆寺の壁画を見るためだったのですが、あるとき新薬師寺に行つたときにすごく感動して、そこで下宿する格好になつたんです。昭和十六年といえば、もう三十九になつてました。もう一生仕すべき年齢なのに、絵画がどういうものが本当に知らなかつた。浦和では名画を見る機会もなく、画家の先輩もいなかつた。だから遅れてしまつたんですね。結婚したのも四十近くなんですよ。

——ちょうど奥様の静さんもお顔を見せられましたので、奥様との出会いのお話を……。

須田 ここに愚妻がいますが（笑）、私が新薬師寺に籠つて十二神将の一体を描いていたときに、この人が奈良へ来ました。夫に先立たれていたのですが、えらい人の紹介で奈良へ仏を描きに来ていた。私は貧乏書きと



須田画伯のアトリエは、混沌とした宇宙空間そのもの。雖然さの中に不思議な秩序がある

して十人ぐらいの画家と一緒に寺に寄寓していたんだ  
す。私が描いている仏を描きたいと、生意気なことを言  
うので（笑）断つてやろうと思っていた。ところが、わ  
ようど、初夏の頃で純白のバラソルトと純白のドレス姿だ  
ったんです。それ違った瞬間、あつ、綺麗な人だと、恋  
心を少し覚えてしまった。そのときに神将の絵の素描を  
あげたところ、お礼の手紙が来たんだが、万葉仮名で書  
かれていたので読めない（笑）。人に読んでも貴ったら、君、  
これはラブレターだ、阿呆らしくて読めんよと言われた  
（笑）。読める文字で書いてくれと言つたら、今度は普  
通に書かれた手紙と一緒に、フランス人形が送られて来  
た。これはただごとではないと思いましたね（笑）。この

静 私は藤島武二先生を尊敬していましたが、藤島先生の  
ようなタッチで描いていたので、こういう人に絵を教  
えて欲しいと思つたんですよ。

——でもまたどうしてフランス人形を。

静 実は私が関西でフランス人形を流行らせた元祖なん  
ですよ。亡くなつた主人が私に、人形づくりは誰にでも  
出来るからやりなさいと奨めてくれたんです。当時、新  
聞やラジオでも紹介されたんですよ。

生命感がなければ、それは絵とはいえない

須田 「正法眼藏」の中には、大変重要なことが書かれています。つまり、すべての行動は、文学的な言葉で、たとえ百万言を尽しやして言つても駄目だということです。知識偏重では駄目だ。実際に体験してみなければいけないということを言つてゐる。絵を描くのも同じ。口であれこれ百万言いっても駄目。実際に色で出し、線で出さないといけないということですね。

絵を描くときに一番重大なのは、生命の存在です。使命感が絵の中によつとでも出ておればいいのです。それが出ていないと、それは絵ではなく実的な模様、イラストですよ。少なくとも芸術といわれるものには生命感がなければいけない。私は絵に、哲学と宗教を入れたんですよ。宗教的実体がないと絵が心細くなる。

宇宙生命体全体実体といふものがある。植物でも虫けらでもすべて生きているでしよう。石なんかは違いますよ。こういう宇宙生命体全体実体が一つにまとまれば、それは神といえは神なんだけれども、一つだとやがて滅びてしまう。だからバラバラに微塵にくだけて分かれてしまつた。今しゃべつている私も、私の話を聞いているあなたも、みんな宇宙の微粒子なんですよ。それを虚構



自宅の庭で夫人の静さんと。「アトリエを掃除しようと思っても怒るので放ってあるんですよ」。その言葉には、永年共に歩んで来た須田画伯への思いやりが感じられる。

くなくなる。僕らが見ると当たり前になつてしまふんです。私は八歳から抜け切れていないんですよ(笑)。い

くら描いても嬰孩性があるんです。嬰孩性とは鈴木大拙が「日本靈性的自覺」という言葉でいつている幼な心のことですね。写楽や山下清の絵、さらに山頭火の句にもそれがあると思う。たいがい八歳ぐらいで失ってしまうものです。私はこれから描く絵にも嬰孩性をもたそうと思っているんです。

——そこには感動があるわけですね。

須田 そう、感動をもちたいですね。感動を知らなければ駄目ですよ。文学だって音楽だって生花だってそういう風に感動があることが僕の誇りなんですね。写楽の絵、円空の彫刻、日隱の書画、良寛の楷書、北魏の書、日本縄文記号などすべて嬰孩性ですよ、熊谷守一の絵も。

私の絵の強味は、ものをそのまま写生するのではなく、いつたん造形化することだと思います。実物を見はするが、ある形をつくつちやう。その方が、かえつてものにとらわれないし、生命感が出る。生命感といつても強いてばかりではなく、弱い感じを与えることも必要です。私の絵は、俗にいう上手い絵じやない。だけど何か感動させるところがあると思う。もちろん私の絵を嫌いな人もいるでしょう。しかし私の絵に惚れ込んでくれる人は、大変に惚れ込んでくれる。やはり私の絵は、一種の特異児童のそれでしょうね。僕はそれを「差違」って言つてゐるんだけど、今の風潮の中で、差違が認められて来たのかも分らない。八方美人じやないんです。

絵の中に、上手さと下手さが両方出たらいいと思つて

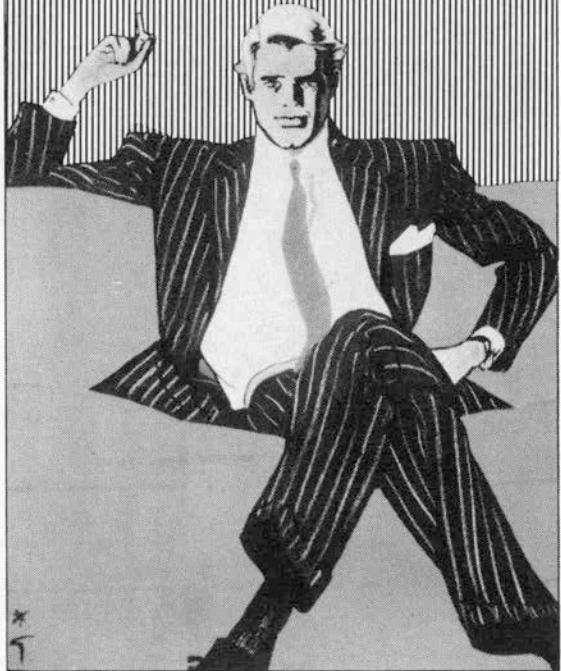
いるんです。そんなこと出来るものかと言われそうですが、上手さと下手さが両方なければいけないという考えが私はある。とにかく一方しか出来ない人間は駄目なんだ。私は抽象も具象もやる。両方やって来て、もう十七八歳になつてしまつた。でも七八十とは思つていな

が、その後も嬰孩性(ようがいせい)を失なわずに描きつづけたい

——先生の絵を見ていて、線一本からでもすごいエネルギーを感じ、見ていても元気になりますね。ところが、その年頃の子供は、驚天動地のものを描くことがありますよ。真紅のあやめを描いたりする。中学生になると面白

須田 妻は私のことを特異児童だと言いますが(笑)、一般に八歳ぐらいまでは描いた絵が稚拙ですね。ところが、その年頃の子供は、驚天動地のものを描くことがありますよ。まだまだありますよ、まだまだ。

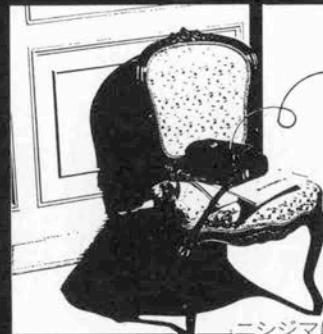
Most Beautiful Quality Life



創業明治十六年  
**金 柴田音吉洋服店**

神戸・元町4丁目南 TEL(078)341-0693  
大阪・高麗橋2丁目 TEL(06) 231-2106

バッグ・帽子も洗えます。

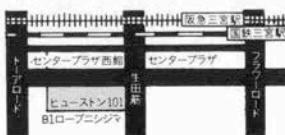


手にもつバッグは  
手アカで  
汚れています。  
一度ニシジマで  
リフレッシュして  
みませんか。

ニシジマにご相談ください。



- サービス内容●  
●型くずれの防止 ●素材感の回復 ●お客様のお好みに合せた仕上  
●カルテの作成 ●ファッショն、クリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号  
ヒューストン101 (078)332-2440

# 神戸ブランドで彫刻作品を世界に輸出しては。

□出席者□

柳原 義達 ▶彫刻家▽

増田 洋 ▶美術評論家・  
県立近代美術館館長補佐▽

速水 史朗 ▶彫刻家・  
宇部市野外彫刻美術館賞受賞▽

増田 正和 ▶彫刻家・  
神戸市文化賞受賞▽

小林陸一郎 ▶彫刻家・  
神戸市文化賞受賞▽

松尾 光伸 ▶彫刻家・  
神戸市教育委員会賞受賞▽

— 10月1日、第9回神戸須磨離宮公園現代彫刻展のオープニングセレモニーが盛大に開かれ、11月10日まで展示されます。今回は、都市と彫刻について、市民生活の安らぎの鍵となる街づくりをテーマに、夢のある自由なお話をお願ひしたいと思います。

★市民生活により身近になってきた神戸の彫刻

柳原 今回で神戸須磨離宮公園現代彫刻展も9回目を迎えたわけですが、これは1968年からビエンナーレとして定期的に開催されてきて、16年の蓄積を経て、現在に至っています。当初、宮崎辰雄神戸市長が「神戸を緑と水と彫刻の街にしたいんだ、それにはどういうふうにすればいいんだろう」と、私に相談をもちかけられました。とはいって、神戸には神戸の事情があり、その頃、美術評論の第一線というべき存在だった土方定一さん、宮崎市長の意向を伝えました。そして、結果的には、せ

ひやろうということになり、増田洋さんや赤根和生さんたちの力添えもあり、東京からも評論家に加わってもらい、この彫刻展が何らかの形で、神戸の街づくりに役立てばという意気込みで第一回が開かれたんですね。

増田（洋）「夜（光）、風、水」がテーマでしたが、残念なことに神戸の地元作家の出展がなかった。

柳原 第一回が始まったけれども、最初、神戸市が考えていた彫刻展は実は具象だったようで、抽象彫刻が集まつたので多少のとまどいがあったと思いますよ。

速水 私は、第一回展を見て、関根伸夫さんの作品が強烈に印象に残りました。私も出展したいなど激しく感じましたね。しかし、当時はコンクールがなかったわけで招待作家ばかりで出展のしようがなく、くやしくて（笑）……。そのうち、第4回目で私が招待されて出展した時はじめてコンクール制度ができた。この時は本当、複雑な心境になりましたよ（笑）。

柳原  
義連  
さん速水  
史朗  
さん松尾  
光伸  
さん

柳原 最初から、非常な熱気が感じられましたね。神戸を緑と水と彫刻の街にするんだという熱意というか、あついものがあつて、今日に至っている。だんだんと、彫刻が市民生活にとけこんで、身近な存在になってきたなど感じています。市民の方としても、親しみをもつて生活の背景として、あるいは街の緑と同じような感覚で接しているような場面に出あうこと多くなった。

確かに日本は彫刻をうけいれやすくなつてきてはいるけれどもヨーロッパとの大きな違いがあります。つまり、ヨーロッパ、特にドイツなどは造形に対する自分たちの精神のあり方というものが、根本的に異なるんですね。何か、生まれついての哲学的なものをもつているわけです。そこに日本との大きな開きがあり、若干の疑問も感じていますね。日本の経済発展を象徴するような巨大な作品群が生まれ、日本独特のパワーが日本の彫刻水準を急激に高めていく、少しずつ理性をもちはじめています。おそらくは、日本の彫刻界は国際的にも充

増田  
洋さん増田  
正和  
さん小林陸一郎  
さん

分、通用するようになるでしょう。

増田（洋）第一回のテーマは、光と風と水で、作品を見てみんなびっくりしたわけですよ。ネオンやらステンレススチールやらが、キラキラしていて、彫刻が“石”だと考えていた市民の側からすれば、これはもう凄いカルチャーショックだった。わけはわからないけど、実に面白いこんなユニークなものが彫刻か、と（笑）。

これで神戸の人々は洗礼をうけたわけです。

それに、今までずっと統一のテーマを設けてきたわけですが、作家側にとってのテーマというより、見る側、つまり神戸の市民サイドにとってのテーマだといえますね。彫刻という存在がいかに市民生活との関わりを保ちうるかと今までの16年の模索の中で方向をさぐりつけたわけです。コンクールで出てきた作家たちも、その後の活躍がめざましいのは嬉しいですね。さきほど柳原先生の話でも、外国と比較もありますが、外国の場合には、自国の作家を送り出して、逆に他の国の作家を呼ん



第9回神戸須磨離宮公園現代彫刻展開式



10月1日に行なわれた受賞式典

— 48 —

増田（正）恐縮です。

柳原　いや、最初にその話をすべきだった（笑）。おめでとうが、あとになってしましましたが、乾杯をしましそうか。

全員　乾杯！

速水　私は香川県での県展に出していくて、ちょうどその審査員を柳原先生がされていましたね。柳原先生にお会いして、先生の助言で具象から抽象へと彫刻の道へ入つたんです。どうもハメられてしまつた感もあります（笑）。

私の住んでいる四国では、先祖から石との関わりが深くて、お地蔵さまとか、道標が実際に多くて、少年時代から道とともに出会ってきたわけです。私は思うのですが、現代の彫刻の役割というのは、このお地蔵さまや道しるべであり、これらが街にとけ親しんでいくこと、そして、作家は道標をつくらなければならないということことなんですね。私の作った「太陽の門」が今、三宮のフランワード三和銀行前にあります。すぐ下にサンチカ

があつて、三宮のあの周辺での道しるべを担当していると考えているんですね。現代の都市空間の中での道標だと。

やはり、現代彫刻は限られた空間にあるのではなく、人とともにあるものだと思います。神戸の彫刻展は20年かかりで積みあげたものですから、私も神戸とともにあり、神戸へくると街中の私の作品や作品を通じて知りあえた人々に会えるんです。嬉しい気分ですよ。

柳原　太陽の門が道しるべになったのは、すばらしいことですよ。それが、本来の彫刻です。

速水　もう一つ、傑作な話があります。東京都美術館賞をいたいた黒い石の彫刻なんですが、東京でもこれ

を引きとらないで、結局、神戸市がうけ、新長田駅前の都市整備のシンボルとして据えつけられました。ちょうど、ドーナツ形で真中がくりぬいた作品ですが、設置されたあとで、いつのまにか、隣に、ミスター・ドーナツができたんです。だから、彫刻の真中を通してみるとドーナツ形の向うに、ドーナツ屋さんがある（笑）、これ

★都市の中での歩きを始めた彫刻作品たち

柳原　今日の神戸市文化賞を受賞された環境造形Qの3人の方々は、神戸とともに歩んできた作家といえますね。山口牧生さんはここにおられないけど、増田正和さんと小林陸一郎さん、本当におめでとう！

小林　どうも有難うございます。

が大繁盛していく、子どもがワイワイ、ドーナツ、ドーナツいうて遊んでいるんですよ。

柳原 アハハ、本当ですか。面白いな。展覧会が終つて彫刻がひとり歩きを始め、市民の日常生活の中に自然にとけこんでいく、いい例だなあ。

増田（正）ポートアイランドの北公園にある私の“ザブトン”は、いい場所に据えてもらつたと思っています。しかし、ちょっと不満もあるんです。作品に腰をおろして、港や街を眺めてほしいのですが植え込みが邪魔をしています。

柳原 増田洋さん、我々も反省しなきゃならんですね。

置くべき場所と作品自体のひめている置かれた環境の中での親和性とを、最適の条件で関連づけていくべきです。ドーナツの例のような意外性も含めて。

松尾 これは提案なんですが、諸外国の大都市、特にヨーロッパなどには、歴史をもつた本格的な公園があり、

アメリカでは大企業のグランドマーケットとして、そこにシンボリックな彫刻が置かれています。須磨離宮で

の彫刻を諸外国や神戸の企業に神戸市が、貸しつけてもいいんじゃないでしょうか。

増田（洋）神戸電々の建物の東側に置かれている関正司さんの作品は、電々公社が購入して設置したものですよ。電々側を背中に向う側をみると、ちょうど旧市街が美しくノスタルジックに一望できます。これは、他の企業も参考にしてほしいイメージづくりですね。

増田（正）あれは大変いい場所ですね。

増田（洋）松尾さんの意見について、景観条例という面もあるけど、まずはじめに神戸市の職員がアタマの切り換えをしてもらわなければ。

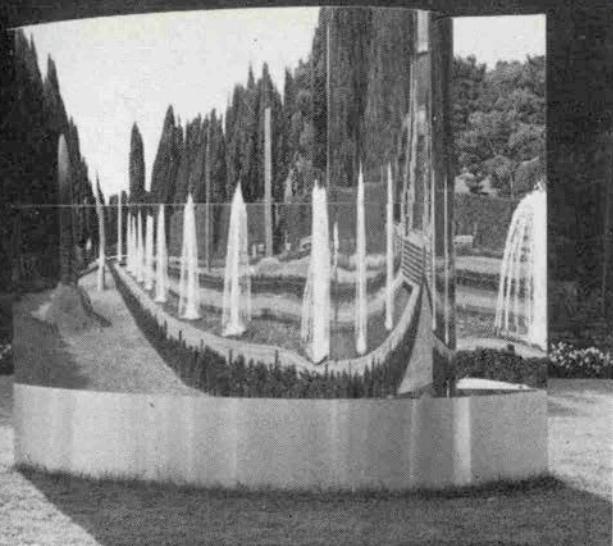
増田（正）多田美波さんの作品が、最初大倉山に置かれていたのと、現在のフラー・ロードとでは、えらい違いますよ。場所を変えることによって彫刻が生き返ったよい例です。

小林 永久設置でなくて、移動可能な形で置いて、本当にふさわしい場所を発見できるまで搜すくらいの努力はしてもいいんじゃないですか。作家もモニュメンタルなものを使死でやるのでなく、楽しんで作ってほしいですよ。

須磨離宮でも、いちばん遊んだ作品が、いちばんいいんですから。設置場所についても、ここに絶対置いとかなかあかん、と言い張るのでなくして、作家側の意識の改革も必要ですね。

松尾 最近、私の知っている人が彫刻のリースを頼んできました。彫刻作品は日本の全国で求められているのですから、もつと先進的な考えをもつとしたら、神戸市が全国にリースしましようというシステムをつくればいいんです。作品が飽和状態になつたとき、公園でブールしておいて、全国ヘリースする。作家にもロイヤリティーとしてリース料の一部を支払う。そもそも神戸のミナトは異種文化が入ってきたロイヤリティーがエネルギーの源になっているんですから、これぐらいの発想がほしいですね。

それに、彫刻ひとつすじにつぎこみたいという若い世代



神戸市長賞（大賞）受賞の「風景船」（小田襄さん）

は全国にいっぱいいるわけです。須磨離宮も第10回を迎えた後、あとはビエンナーレからトリエンナーレにかけて3年毎のイベントにする。その余力を今度は若い世代を育てる分にわりあてるんです。若者が自由に参加できるシステムを神戸が全国的スケールでやる。これは地元神戸に対する文化還元です。地元自体の文化のクオリティも高め、次のジェネレーションづくりが街づくりにもつながっていくキー・ポイントになるでしょうね。

**増田（洋）**若い作家が彫刻によって文化づくりに参加していくという点は大切ですね。神戸文化ホールから湊川神社までの彫刻の道ももっと考えたいなと思うのは一昨年できたばかりの生田文化会館の例が非常にうまく行ってるからです。高橋秀幸さんの作られた彫刻「ドンナ」が会館の入口にあって洒落た若々しいシンボルになっているんです。この会館のホールで催されるコンサートが「ドンナホール・コンサート」という名で、実に市民に親しまれています。愛称というんですか、呼びやすく可愛い。彫刻が全ての文化活動の中核になってきてるんです。

**増田（正）**神戸というと六甲山の南斜面を考える、旧市街地的な目のやり方から、今度のワイン工場や総合運動公園など西神ニュータウンが注目されてきていますね。

**小林** 都市の形態からみて、神戸は他都市からうらやましがられていますね。今回の彫刻展のテーマは「くらしと彫刻」ですが、神戸では大きなものから、いろんな工夫ができる、神戸でしか見えない所も多い。

速水 でも、神戸の土地柄のよさは別にして、横浜と比べると、まだまだ宿題が多いですよ。横浜ではビルが建つとともにかく何かシンボルをつくる。そして、その総工費の1%を上積みして、作家と相談して作品を創るシステムになっています。それに、作家の好きなことを自由にさせてもらえるわけだ。つまり、彫刻が先で、建物の方向づけをするんです。

**増田（正）**空地があるから彫刻を——ではなく、この彫刻

を生かせるためには周辺をどうすればいいか、が、よい街名を形づくりいくんですね。

**松尾** 彫刻はまだ置き物の意識でしかみていないからダメなんですよ。横浜は東京の衛星都市だからエネルギーッシュで切り替えも早い。神戸は北野町とかファッショントカで、男性的なエネルギーが欠除しているようを感じますね。山から石のかたまりを転がしてくるエネルギーが今の神戸に必要なんです。

**速水** 須磨離宮も10回を契機にもつと実験を試みるべきだ。たとえば、全国から集まつた作品を、作家に対してもあなたなら、神戸の街のどこに設置したいか、ということで、作品と都市との関連を含めた審査も面白い。

**柳原** ユニバーシアード神戸大会の行なわれる西区もその範囲で考えることもできますね。ユニバーシアードを単にスポーツの祭典として捉えるのではなく、トータルに都市空間づくりのイベントしてあってほしいですね。

私、明治生れの神戸っ子が神戸へ戻ってくる度に神戸が着実に前進しているから、いつもびっくりです（笑）。

**速水** 神戸はそこが魅力ですね。高松でつくられた、イ

サム・ノグチの彫刻がアメリカへ渡って、今度は神戸税關を通って日本で売れるのだから、今度は逆に神戸から文化の輸出をするべきです。

**小林** 日本の作品が神戸から出ていて海外で見ることができれば、本当に面白いですね。

**松尾** 日本から外国へ出ている企業は多いですから、堂々と日本のものを買い入れて、日本の彫刻もこんなにいんだと誇りにしてもらいたいですね。神戸市は、ワインとか、水とかやってるんだし、神戸ブランドで世界へ彫刻も売ればどうですか。

**増田（洋）**そのくらいの心づもりが、確かに必要かもしれませんね。須磨のビエンナーレも20周年には、新しい方向づけが必要です。それは、彫刻が神戸の街の中にとけこみ、市民に親しまれていくためのものにと願う次第ですね。

(59年10月1日 須磨寺・寿楼にて)

### 田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作  
神戸市中央区港島中町6-3-2  
TEL (078) 302-3321

### ㈱ベニヤ

取締役社長 松谷富士男  
神戸市中央区三宮町1丁目10-1  
TEL (078) 332-3155

### モロゾフ株

代表取締役会長 萩野友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

### ㈱南インターナショナル

代表取締役 南泰吉  
神戸市中央区浜辺通5丁目1-14  
神戸商工貿易センタービル1701  
TEL (078) 232-1301



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の  
企画は以上4社の提供によるものです。

# FASHION FAIR

## 君よ、神戸に恋。

### ●オープニングパーティ

神戸のデザイナー集団KFC、KF  
MIによる華やかなファッショショ  
ーを中心開催。神戸トータルファ  
ッションフェアのプロlogueを飾り  
ます。

〈会費12,000円〉

### ●トータルファッション展

多くの人々ををらえ、魅了しつづけ  
てきた神戸が世に問う神戸トータル  
ファッショショフェア。兵庫県、神戸  
市のファッショショ産業を一堂に會し  
て、まさに百花繚乱。衣、食、住な  
ど生活文化に関わる各分野から、創  
造的な生活提案を競います。

〈入場無料〉

### ●バザール

オリジナリティあふれるグッズを集  
めたビッグバザール。お買い得、  
掘出しモノに遭遇できるチャンスが  
いっぱいです。屋外ステージではミ  
ュージックイベントを中心に、楽し  
いショーや市民参加でぎわう催し  
も連日開催。あなたの飛び入りをお  
待ちしています。

〈入場無料〉

### ●シンポジウム

「都市文化と芸術」「神戸ファッショ  
ンの魅力をどういかす」をテーマに  
新しい生活文化を語っていただきます。

基調講演「都市文化と芸術」 木村  
重信氏(大阪大学教授)

パネルディスカッション「神戸ファ  
ッションの魅力をどういかす」・パネ  
リスト:立石長三氏(ナクトアトリ  
エ代表) / 田中園夫氏(関西学院大  
学教授) / 水谷穎介氏(都市計画設計家)  
/ 宮本豊子氏(兵庫県生活科学研究所)  
/ 木村重信氏(大阪大学教授) • コー  
ディネーター:鈴木謙一氏(鈴木齒  
科器材社長、元日経論説副主幹)  
〈入場料1,000円〉

### ●シアター

トータルファッショショを動的なパ  
フォーマンスで描写。ヴィジュアルイ  
メージに訴える新しいライフスタイル  
の提案は、あなたの感度にきっと  
ピッタリくるはずです。趣向をこら  
したライブショーのなかで、生活ス  
タイリストとしての視点と感性を高  
めてみてください。

「第12回コウヘファッショショ」  
コウヘファッショショデザインコンテ  
スト別の大賞作品の発表と、参加者  
によるオリジナルショーの2部構成  
です。

〈入場料2,500円〉

テーマショー「神戸を語ろう」(は  
かに、ブライダルショー、ファッショ  
ンショー、ジャズ、など)

#### 出演

:前田美波里、劇団神戸、今岡頌子

舞踊団、神戸っ子サンバチーム、ジ  
ャズグループ、オペラグループ他  
〈入場無料〉

### ●協賛事業

ポートアイランドのあちこちで開催  
されるファッショショショー、スポー  
ツ大会、ビッグイベントの数々。ボ  
ートアイランド全体がお祭り広場と  
化して、フェスティバルムードを盛  
り上げます。

「クリスマス観葉会コンテスト」各  
会員が工夫をこらしたデコレーショ  
ンケーキの数々。バレンタイン出品  
作品のコンテストも同時併催。

「アシックスファミリージョギング  
フェア」ジョギング大会、体力測定  
など盛況山のスポーツイベント。

種目:ロードレースの部(10km) ファ  
ミリーの部(5km/ペア) インターナシ  
ョナル駅伝(10km/女子2名を含む5人  
チーム)

「ホルスト・ヤンセン版画・ポスター  
展」(11/14㊱~21㊲も開催) ホル  
スト・ヤンセン氏の最新版画約120  
点、ポスター約120点を一挙公開。  
ご希望の方には販売もいたします。  
「国際サンバフェスティバル」サン  
バコンテストおよびプロのサンバチ  
ームを招待してのアトラクション。



ファッショショ都市神戸が咲きます。

# KOBE TOTAL



## 神戸トータルファッションフェア

11月21日㊈(前夜祭)・22日㊉→25日㊋

会場:ポートアイランド

主催:神戸トータルファッションフェア協議会  
(構成団体一兵庫県・神戸市・神戸商工会議所ほか25団体)

80の企業・団体がステキな生活を提案します。

11月	21 木	22 木	23 金	24 土	25 日
トータル ファッション展 (神戸国際展示場1階・2階)				■ AM10:00~PM 6:00	
バザール (市民広場)				■ AM10:00~PM 6:00	
シアター (神戸国際展示場2階)			「第12回コウヘフアンショニー」 ■ PM 0:00~PM 3:00 ■ PM 6:00~(3回公演)	ジャズ「ジャスティン・ジョンソン」「ジャズ・サイドジャズ」「ジャズ・ライダルショー」 ■ AM10:00~PM 4:00	ジャズ「キャンディ浅田他」「ジャズ・タイムファイブ」 ■ PM 6:00~(予定)ほか
協賛事業		「クリスマス観覧会コンテスト」 ■ PM 0:00~PM 4:00 ■ ボルティコ	「クリスマス観覧会コンテスト」 ■ PM 0:00~PM 4:00 ■ ボルティコ	「ホルストヤンセン版画・ポスター展」 ■ AM10:00~PM 6:00	「国際サンバフェスティバル」 ■ PM 1:00~PM 4:30 ■ ワールド記念ホール
シンポジウム (田崎ホール)	講演「都市文化と芸術」 「バネルディスクッション」 「神戸ファッションの魅 力をどういかす」 ■ PM 1:30~5:00				
オープニング パーティ (神戸ポートピアホテル(備後の間))	■ PM 5:30~8:00				

- ラッキープレゼント/招待状持参の方に限り、ハイ旅行はがき 華やか品が当るラッキー抽選会を実施します。☆招待状ご希望の方は事務局まで TEL.078-251-1001
- お楽しみ抽選/ご来場の方にスタンプチーリングのお楽しみ。会場内4ヶ所に設置されたスタンプをすべて捺印された方に抽選で、れんが景品をプレゼント。
- 無料バスの運行/三宮(神戸新聞会館北側)から会場まで無料バスを運行します(11月22日~25日)。運行時間は午前9時から午後6時30分まで。15分から20分間隔で運行します。

●お問い合わせは、神戸トータルファッションフェア協議会事務局まで TEL.078(251)1001(神戸商工会議所内)

わしはゴキブリを絶滅させることをあきらめ  
ゴキブリとは共存することにした  
そのためにはゴキブリにも  
愛らしい存在であってもらいたい



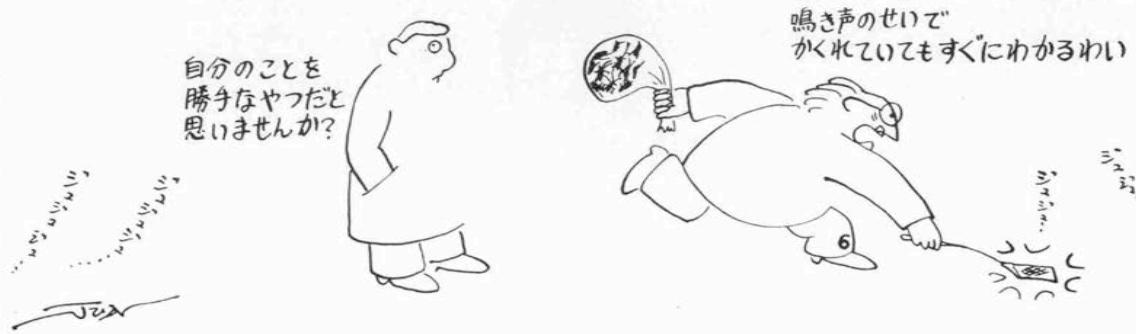
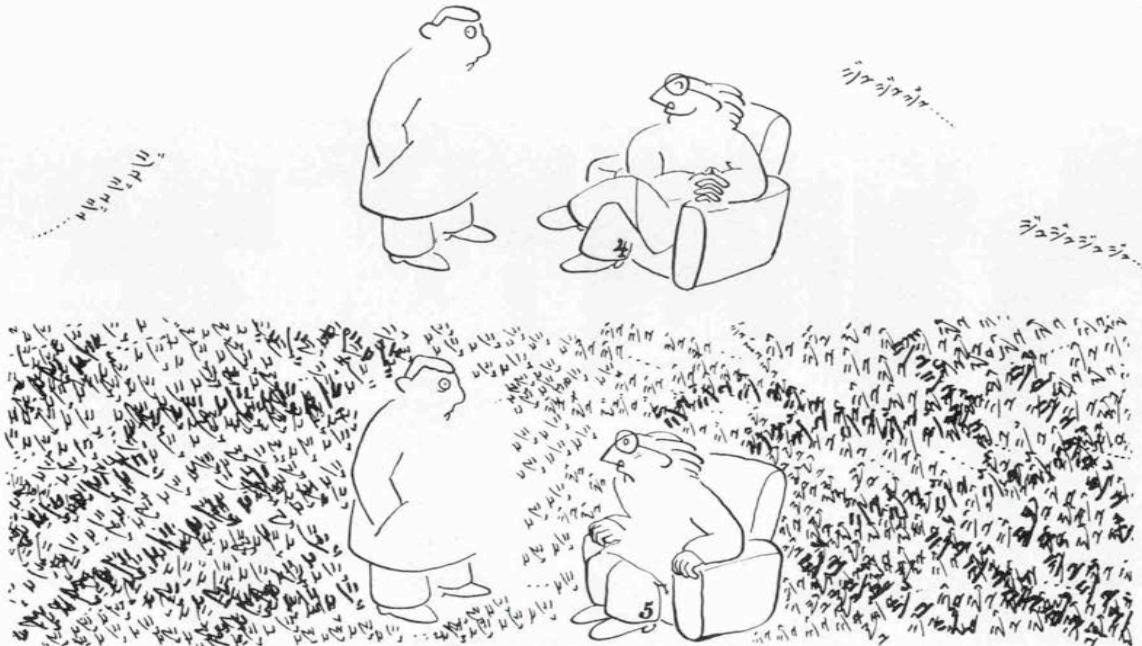
なん"す？ これ



ゴキブリの鳴き声じゃ  
かわいいもんじやろう



ゴキブリが愛されないのは  
かわいい鳴き声か  
なかったからではなかろうか  
このアメはなめたゴキブリののどを  
やさしく刺激し鳴き声を持たせるのじや  
わしは部屋のあちこちに  
このアメをばらまいたのだ



# 大人の知的エレガンス



「今年のコレクションでは、お客様に身近に感じてもらつて、すぐにでも着ていただけるようなものを選んでおります。同じデザインでも、着る人によって雰囲気がずいぶん変わりますので、ご自分の感性に合わせて自分らしさを表現してほしいですね」と山下千世・神戸本店マルケーザサロン・マネージャー。

シンプルだけれどほんのちょっとしたところに心憎い工夫が凝らされているリザの洋服は、知的エレガンスを演出したい大人の女性にピッタリ。いいものと出逢う時女性はいつも輝きに満ちる…。本当ですね！」



笑顔が素敵な山下マネージャー。

神戸ファッショニオンのリーダーとして注目を浴びているリザが9月10日、オリエンタルホテルで、ファッショニショーを開催。テーマは「秋／冬ヨーロッパエクセレントコレクション'84-'85」

△リザ・サロン▽が一点一点厳選したブランド、インポート一流ブランドからファコレクションまでの数々、アダルトな女らしさを強調したヨーロッパのエレガンスマードいっぱいのショーに観客のため息が感じられた。このコレクションは、同社の創立10周年を記念したもので、東京、大阪、宮崎など全国8カ所で披露された。

FASHION ● REPORT  
'84秋冬魔女コレクション

ヘルシーに生きるエレガントなシンプルさ



大里最世子先生

40点の新作の中味は、イギリスレースやフランスレースを使用したブラウス、女性を感しさせる6枚はぎのスカート、人工皮革を利用したパンツやタイトスカートなどふんだんに、ラストには、豪華なフォーマルウエア一までが登場した。なかでも特に目立ったのは、代表作ともいえるブラウスで、「冬にこそ、白いレースのブラウスを着ていただきたいです」と、大里さんは語る。魔女の作品群は、ヘルシーに生きる女性の誇りを感じさせてくれた。

今秋より、オリジナルブランド「サマンサ」も登場している。

9月18日(火)、北野町「利宮」において、K・F・M△神戸ファッショナモディスト△会員大里最世子(ブティック魔女オーナー)さんによる、「'84秋冬物魔女コレクション」が開かれ、小田イタル氏のピアノとともに神戸エレガンスの漂う約40点の新作が披露された。

今秋のテーマは、「海底遊歩」。この夏タチヒ島で美しい熱帯魚にかこまれ、海の底にいながら考えたことが、「余分なものを切り捨て、ヘルシーに生きる。その上に、シンプルさを基準としたスポーティエレガنسを生かせよう」ということだ。

## 第1回月神戸っ子写真コンテスト、神戸の風景シリーズ

・選考座談会

# 新しい神戸、新しい視点の創意工夫を



審査員  
小山 保



審査員  
堀内初太郎



審査員  
緒方しげを

——写真コンテスト夏シリーズの選考会が終わったところで、各生に総評をお願いします。

緒方 夏に相応しい作品が思つたほどなかつたですね。いかに「新しい神戸の夏」を撮るかの兼ねあ

いが難しかつたようだ。

堀内 確かに季節感が乏しかつた視点にも新しいものがない。

小山 第一回だから応募者側にてマの把握ができてなかつたのかかもしれない。

緒方 夏の季節感の幅がない。風景にしろ生活にしろもつと広げてほしい。広い意味での解釈を望みたい。

堀内 摄りためたものから提出するからニュービジョンがないんだ新しいものを撮つてほしいね。

緒方 新しいといえばポートアイランドの写真がすいぶんあつたねやはり建造物など新しいからな

堀内 推薦に選ばれた井上知さんのがつた。ダイナミックな迫力があつたね。

緒方 構成もビシッとまとまつていた。ヘリコプターの写真は他にもあつたけれど、やっぱりコレですね。ただ、難点は季節感がわかないことかな。

李慧枝さんの「夏の夜」(特選)は逆に夏の季節感が出ていたね。人物の配置もよかつたと思う。

——若い女性だけに期待もできますね。

緒方 行事を細かく見つけて撮つていくこと。写真は「発見」です。

小山 原宏洋さんの「垂水海神社祭礼」(特選)は海神社の雰囲気がよく出ていた。ペテランらしく構成、描写とも精密だったが新しさに配慮がなかつた。稗田重成さん

の「落日三橋」(特選)もよかつたが、三枚の組写真的うち一枚目の写真がよくなかった点が惜しい。

堀内 いい作品だが視覚的な面で新しさがない。古臭いパターンだと思う。

緒方 アングルを考えることが大切ですね。

神戸の場合、斜面の街だから、いろいろ工夫すればおもしろいアングルを探せるとと思う。

小山 新しい神戸を新しい視覚できりとることにつきるね。

それとファッショントの写真が少なかつたですね。さらに若い人の写真が少ない。どうも若い人にはいちばん少ない。

緒方 軽く感性で撮つている気がするんだ。どんな撮り方でもいいからさつきおつしやられたようにいちばん撮つてほしい。方向性が決まっていない。ただ、これは神戸に

限らず日本全体にいえることです  
がね。

小山 確かに今は目移りしやすい  
時代ですけど、僕らも若いときは  
いちばんがあったものです。

堀内 あるいはいつときいちばんがな  
いと視野が広がっていかない。や  
っぱり自分の方針性を明確にして  
ほしいと思う。楽しみでやつてくれ  
るのは構わないが自分で樂  
れるのは構わないが自分で樂

しんでもらっては困る。やはり見  
る側も楽しませてくれないと…。

小山 驚かしてもいいし泣かせて  
もいいから。どうも自分だけ驚いて  
いるようなきらいがある。

堀内 神戸は日本のレベルが  
高いところなんですか…。  
—写真やイメージのある街なん  
でしょうね。

緒方 國際都市ですから吸収する

### 推薦

月刊神戸っ子賞 (5万円)

井上 知  
「青空に飛ぶ」

神戸市街地をバックに撮りたか  
ったがそういうのならず、構図とナチ  
ンスに気をこねり五、六枚連写し  
た。とにかくトップで入賞出来た  
ことは天にも昇る快挙で仲間にも  
自慢出来、大変嬉しい気分です。

### 特選

月刊神戸っ子賞 (2万円)

稗田重成  
「落日三橋」

神戸は何といっても東洋一の港  
です。小生はこの港で働いている  
一人です。朝に夕に入出航で眠う  
四季の風景に出会います。時間の  
ゆるすかぎり被写体を求めて記録  
をつくっています。有難う御座  
います。

### 特選

月刊神戸っ子賞 (2万円)

原宏洋  
「垂水海神社祭礼」

「海神さんの祭りはほんまによろ  
しおまっせ」と私はまた写友を誘  
い出すのです。このお神輿を積込  
んだ御座船が僚船を連々と從え華  
麗に吹き流しを靡かせ乍ら海上  
渡御は実に素晴らしい光景です。

### 特選

月刊神戸っ子賞 (2万円)

李 慧枝  
「夏の夜」

神戸は私が生まれ育った町、そ  
の町を題材にし、此度は思いがけ  
なく月刊神戸っ子主催のフォト  
コンテストに入選でき、たいへん  
うれしく思います。これを機会に、  
より一層努力し、良い作品を造  
ていきたいと思います。

### ★月刊神戸っ子賞

入選10名 (5千円)

佳作30名 (フジカラ一賞)

●入選

江 康之

村 悅郎③

福 太加志

田 金

中 幸

島 子

入 登

江 康之

村 悅郎③

福 太加志

田 金

中 幸

島 子

入 登

江 康之

村 悅郎③

福 太加志

田 金

中 幸

島 子

○内  
数

数字は作品点

(応募順)

部分も多いし変化も多い。おもし  
ろい被写体もたくさんあります。

小山 神戸生まれの人間は粘りが  
ないから、大作に取り組む姿勢が  
弱い。僕なんかまさにその典型で  
して（笑い）。

緒方 新しい季節感、新しい視点  
をもつた作品を次も期待します。

■なお入賞作品は十一月一日から十日間に  
わたり北野パールギャラリーで公開されま  
す。

小 村 竹 確 林 井 高 天 大 林 福 入 江 康 之  
倉 倉 林 村 内 水 田 戸 木 本 野 西 上 田 田 太 加 志  
美 慢 悅 彬 德 賢 秀 忠 佳 正 满 正 茂 雄 夫  
清 まき の 保 郎 弘 雄 次 孝 夫 一 正 行 子 也  
○ 内 数 字 は 作 品 点

# 春夏秋冬神戸風景 神戸の風景 秋シリーズ 写真コンテスト 作品募集 主催 月刊神戸っ子

## 応募要項

- 題材** 新しい神戸の秋の風景、生活などを、あらゆる角度からねらった新作を募集します。
- サイズ** 白黒、カラープリントは四ツ切、組は5枚以内、カラースライドは35%版以上
- 募集締切** 昭和59年11月30日(当日消印有効)
- 受付場所** 月刊神戸っ子編集室  
(郵送、又は持参のこと)
- 審査** 堀内初太郎先生、緒方しげを先生  
小山 保先生、小泉康夫
- 発表** 締切り日の翌月、応募者に直接通知いたします。
- 展示** ギャラリー神戸時代

## 賞

- 推薦 1名 月刊神戸っ子賞(賞金5万円)
- 特選 3名 月刊神戸っ子賞(賞金2万円)
- 入選 10名 月刊神戸っ子賞(賞金5千円)

## 細則

- 応募作品は未発表のもの、または他に発表予定のないものに限ります。
- 入賞作品の著作権は主催者に属します。
- モデル撮影の場合は、本人の同意を受けて下さい。
- 入賞作品のネガは通知があり次第主催者に送っていただきます。
- 応募作品は返却いたしません。

新しい神戸の風景写真コンテスト		
題名		
住所		
氏名	男・女	歳
カメラ	レンズ	
絞り	シャッター	
フィルム	印画紙	
撮影年月日	撮影場所	
取扱材料店名		

左図のような見本の応募票を  
商品の裏に貼付けてください

## 経済ポケット ジャーナル

### ★京阪神ファッショニング ンポジウム催される

京阪神ファッショニングマンの一環としてシンポジウム「ときめきのファッショング」が十月八日、田崎ホールで催された。基調講演で浜野安宏氏は「日本人デザイナーの優位性を強調」しかし、「日本のメガネブランドに自信をもて」とこの基調講演をもとに、煙嶺廣敏ワールド社長、藤田周輔ロンシャン社長、清水貞保メルボ社長、尾原容子旭成企画室長の各パネラーが議論、ファッショングの将来性を語り合った。



### 大阪へ移転決定!

神戸市中央区、東遊園地の南にあるアメリカ領事館新設と同館員住宅新設計画が、デベロッパーの株南インターナショナルから発表され、ミナト神戸の名物を惜しむ声と新設領事館への期待などで大きな話題となっている。発表によると新領事館は大阪市北区西天満新御堂筋に面し国鉄大阪駅



米領事館予想図

### はりきる小中村社長



一株の新社屋が武庫之荘に完成、10月11日に披露パーティが行われた。  
小中村政廣社長は「ハンドル箱（マンション）だけなく、生活全般の提案を

船を引渡す。  
三井重工株は八光海運株から受注の自動車運搬船

「ダイヤモンドハイウェー」を引き渡した。両船の総トン数は前者が三三、五〇〇t、後者が三三、一三一t。

引き渡しされた「マーブルハイウェー」を引き渡した。両船の総トン数は前者が三三、五〇〇t、後者

が三三、一三一t。  
「マーブルハイウェー」号は自動車三、二六〇台積みで、大型バス、トラック等の背

通してお客様ニーズに応えた。そして同社専属ライフル・ハイウェーのフランコーディネーターのフランス人ソワーズ・モレシャンさんが、「タケツーは創造力にあります、安心感がある。そして未来を向いていて素晴らしい」と盛んにP.R.。新社屋は地上三階、地下一階。地下部分は一般にも開放している。

新社屋は高重量物も積載可能とされ、マーブルハイウェー号（自動車半完成部）も



「マーブルハイウェー」号  
品包装)も  
可能で、モ  
ータリーゼ  
ーションの  
輸出入に活躍しそうだ。

### ★K O B E オフィスレディ★

丸山しのぶさん(19)

△(株)日本旅行センター

「いい旅行をしていただためにはまず宿からです」と秘訣を伝授。「お客様と納得のいくプラン作りが楽しい。でも旅行後クレームがつくと…」顔で笑って心で泣く。そこは持ち前の底抜けの明るさで頑張ってしまう。山手女子高校を出て一年半。楽しくなってきたところ。男性は平田満のような心優しい人が。垂水区在住。

★米領事館61年秋に  
創業11年を迎えたタケツ  
が新社屋を竣工